

第2章 スウェーデンのキャリア教育の具体的事例

ここでは、キャリア教育の具体事例として、2つの中学校（ストールフォーシュ中学校、ブレケット中学校）の実践と、スウェーデン経団連が PRAO のために開発した教材を取り上げる。実践事例については、まず学校の概要をふまえ、キャリア教育の実践について明らかにした上で、最後にキャリア教育のコーディネーターの役割とコーディネーターに求められる能力・スキルを整理する。

2-1 ストールフォーシュ中学校 (Stålforsskolan)

エスキルステューナ・コミューンにあるストールフォーシュ中学校は、近隣に工場をもつボルボと連携して PRAO を実施するなど、古くから地域の産業を活かしながらキャリア教育をすすめてきていた学校である。2007/08 年度からは、地域の産業界をまとめる商工会議所が開発した「トランポリン・プロジェクト」という新しい形のキャリア教育を取り入れている。それは、学校側から推進するのみでなく、産業界からのアプローチを受けて行われているという点で注目されており、また実践の内容についても、伝統的な PRAO に替わって広がりつつあるものといえる。

2-1-1 学校の概要

1963 年設立。設立当初は高校も併設されていたが、1980 年以降、現在のように 7～9 年の中学校になる。2002/03 年度より、コミューンの音楽教室と校舎を共用している。

(1) 地域：エスキルステューナ・コミューン (Eskilstuna kommun)

スウェーデンの首都ストックホルムの西約 100km、電車で約 1 時間。ボルボの工場があり、古くから工業地区として発展してきた。とくに近年、1998 年から人口が増加（1998 年約 88,000 人→2007 年約 93,000 人）。コミューン議会では、社会民主党が与党（79 議席中、社会民主党 36 議席、穏健党 17 議席）で、コミューン予算の 39.1%が保育・教育にあてられている。

コミューン内の学校については、基礎学校 28 校（内、中学校は 13 校）、高校は、公立が 3 校、私立が 4 校ある。ストールフォーシュ中学校は町の中心部に位置し、学区内では最大規模の学校。周辺部の方には小規模の学校が多い。

(2) 学校の組織構成

2007/08 年度、7～9 学年、全 26 クラス（7 年 8 クラス、8 年 9 クラス、9 年 9 クラス）。生徒数約 760 人（1 クラス約 30 人）。生徒は主に、近隣の 3 つの小学校から進学してくる。音楽クラスには、他の小学校からも多くの生徒が進学してくる。

学校内は、職員・生徒ともに4つのグループに分かれている。各学年2～3クラスの計6～8クラスが1つのグループを作っている（図表2－1）。各グループは校舎のフロアが分かれており、1つの校舎の中で異なる4つの学校のように活動している。グループごとにカリキュラム・教育方法に独自の工夫をしている。

図表2－1 ストールフォーシュ中学校の組織

グループ		A	B	C	D
特 徴		生徒の活動を重視。 サッカー／ハンドボール	保健系。 保健／乗馬／ハンドボール	文学・生徒の自発的な学習を強調。新しく技術クラスを開設。	担任制の充実・ポートフォリオの活用に取り組む。3 クラスは音楽クラス。乗馬クラスもある。
ク ラ ス	7 年	7a、7b	7c、7d	7e、7f	7g、7k
	8 年	8a、8b	8c、8d	8e、8f	8g、8h、8k
	9 年	9a、9b	9c、9d	9e、9f	9g、9h、9k、

（3）キャリア教育を担う人

ストールフォーシュ中学校には現在、常勤の進路カウンセラー（ペール＝マグヌス・ショーストローム氏）の他に、PRAO コーディネーター（ヤリ・ヴァリス氏）が常勤で働いている。彼ら2人が、ストールフォーシュ中学校のキャリア教育を担っている。

常勤の進路カウンセラーが勤務している中学校はコミュン内で唯一である。PRAO コーディネーターという人員を配置している学校は全国的にも稀だという。このように特別な人員が配置されているのは、予算・人事の裁量権をもつ校長がキャリア教育の重要性を理解し、活動を支えているためである。また、生徒数が多い大規模な学校だからこそ可能になっている。



進路カウンセラー
ペール＝マグヌス・ショーストローム氏



PRAO コーディネーター
ヤリ・ヴァリス氏

2-1-2 キャリア教育の実践

ストールフォーシュ中学校は、古くから地域の産業を活かした PRAO を中心としてキャリア教育を進めてきた。以下では、(1) で PRAO 中心の古いキャリア教育の実践を整理する。続いて(2)で、PRAO で生じた課題を乗り越えるものとして期待されている新しいキャリア教育の取り組み「トランポリン・プロジェクト」の実践を整理する。

(1) 2006/07 年度の PRAO 実践

ストールフォーシュ中学校では、7～9年生の3年間を通して毎年1週間の PRAO を行ってきた。各生徒は、3年間で合計3週間の実習を経験することになる。高校選択が控えている9年生は、PRAO のかわりに高校生活の1日体験を行うこともできる。

エスキルスチューナ・コミュニケーションでは、毎年2週間の実習を行う中学校が多く、それに比べると実習期間は短い。ストールフォーシュ中学校のキャリア教育の予算は年間約20,000sek (約34万円、1sek=17円として算出)。支出の主な内容は次のとおりである。

支出:

①高校訪問、企業見学などの交通費(車・バス・電車)

・生徒

・進路カウンセラーとPRAOコーディネーター(事前・事後調整)

②訪問者の対応(連携企業・コーディネーター・記者など)

③ビデオや本や冊子などの教材

④学校からの郵送物

①実習企業の分野

大まかではあるが、各学年が行う職場実習の分野は決まっている(図表2-2)。

図表2-2 各学年の PRAO 分野

7年生: サービス、商業、コミュニケーション分野 ・ サービス、商業、コミュニケーション分野の内いずれかの分野の企業で職場実習。 1企業が生徒1人を受け入れることが多い
8年生: 技術・工業 ・ ボルボと連携。ボルボは多様なセクションで合計20人ほどの生徒を受け入れていた ・ 他の生徒は、技術・工業分野の他企業で職場実習
9年生: 自由選択。高校生活体験を選択することもできる。 ・ 生徒が自由に選択した企業での職場実習 ・ 進路選択のため、PRAO の時間を利用して高校生の生活を体験することもできる。生徒はたいがい4～5個のプログラム(日本の学科に相当する)に関心があり、高校のオープン・キャンパスの日だけでは見ることができない。そこで PRAO の時間を利用

して、一日中、高校生がどのような生活をしているかを見学する。1日1プログラムで4～5個のプログラムに行けば、一週間になり、PRAOと同じ程度の日程になる。中学生の高校訪問は、高校への不適応生徒を減らし、高校側にとってもメリットがある

②PRAO スケジュール

クラス単位（約 30 人）で1週間ずつ PRAO を行う。生徒は各職場に配属され、担任は、生徒の実習中に実習場所を訪問する。2006/07 年度の実習期間は図表 2－3 のとおりである。秋学期の9月第3週に9年生の g クラスが PRAO を実施し、翌週には9年生の k クラスといった具合に春学期の3月まで続く。

図表 2－3 ストールフォーシュ中学校 2006/07 年度 PRAO スケジュール

	2006 年 秋学期										2007 年 春学期								
月	9		10				11			12	1		2				3		
週	3	4	1	2	3	4	2	3	4	1	3	4	1	2	3	4	1	2	4
クラス	9g	9k	9a	9b	9h	9c	8a	8b	8c	8d	7g	7h	7k	7a	7b	7c	7d	7e	7f
							9d	9i	9e	9f			8k		8g	8h		8e	8f

③ボルボとの連携

エスキルステューナにはボルボの工場があり、17 年間ほど連携して PRAO を行ってきた。原則的に8年生が参加する。ボルボは、PRAO 担当者に対する独自の研修を行っており、PRAO の教育プログラムも用意している。そのプログラムは教員のニーズを満たし、生徒にも好評である（図表 2－4）。

図表 2－4 2005/06 年度ボルボ実習の評価に関する生徒へのアンケート結果（8 年生 135 人：合計が合わないが、資料の数値をそのまま転載）

初日	はい	ふつう	いいえ
心よく迎えられましたか？	134		1
会社で働く人々に紹介してもらいましたか？	119	4	11
初日は満足しましたか？	121	3	10
実習中			
いつも世話をみてくれる人がいましたか？	117	6	11
すべきことは明確でしたか？	114	17	5
学校から先生が見に来ましたか？	94		40

（出典）ストールフォーシュ中学校生徒アンケート 2005/06 年度用

④PRAO の課題

PRAO の課題として、次の3点があげられた。

- ・ 企業における指導者の質。ボルボのように実習のための指導者研修をしている企業は稀。学校で時間をつくっても労働者は忙しく、研修のための時間をとりにくい
- ・ 安全性。中学生では、安全性の観点から職場実習ができない分野もある。精密機器、製造業分野など
- ・ 生徒は自分が実習に行った狭い職業のことしかわからない

(2) トランポリン・プロジェクト

以上のような PRAO の課題を乗り越えるために、ストールフォーシュ中学校は 2007/08 年度から、東部スウェーデン商工会議所（図表 2－5）が開発した新しい形のキャリア教育のプログラム「トランポリン・プロジェクト」に参加している。

トランポリン・プロジェクトは、7～9 学年の 3 年間を見通して計画されたキャリア教育のプログラムである。今までの PRAO の長所を引き継いで 1 つの職業・企業について深く学ぶと同時に、労働市場の現実を広く知り、理解することを目指している。そのために、PRAO では数週間の実習で終わりがちだった企業とのつながりを、3 年間の長期にわたって保ち、より深く広い学習を行う。

とりわけ、安全性や仕事内容の点から PRAO の受け入れが困難だった製造業に関するキャリア教育を進めるため、企業見学・出前授業・総合的な学習といった PRAO 以外のキャリア教育の形式を組み合わせるカリキュラムが組まれている。

図表 2－5 トランポリン・プロジェクトの開発主体



【東部スウェーデン商工会議所（Östsvenska Handelskommaren）】

スウェーデンを 11 の地域に区分して、それぞれにある商工会議所のひとつ。

約 600 企業が参加している民間の産業界団体。約 100 年の伝統がある。本部はノルショーピン。4 つの事務所（エスキルスチューナ、リンシェーピン、ノルシェーピン、ニイシェーピン）がある。

○ 業務内容

「貿易と産業の支援と発展」のために、以下のことを行っている。

- ・ 地域の産業活性化
- ・ 国際貿易
- ・ 商業の知識とネットワーキング

○ 商工会議所とスウェーデン経団連との関係

商工会議所とスウェーデン経団連とは、プロジェクト運営上の連携はない。情報交換、スウェーデン経団連の作成した教材の利用などにおいて協力している。スウェーデン経団連は経営者団体であり、政治的な活動も行う。キャリア教育に関しては、全国的に教材を作成・配布しているものの、地域の企業とともに活動することはない。一方、商工会議所は地域に密着し、企業とともに活動する。各地域のネットワークを維持する。

**<インタビュー：東部スウェーデン商工会議
所セーデルマンランド地域統括 アネッテ・
ロジャーズ氏、地域開発マネージャー レイ
ラ・グロス氏>**

①トランポリン・プロジェクト誕生の背景

商工会議所の第一の目的は、企業のニーズを満たすこと。現在、メディアや芸術の分野で働きたいと思っている生徒が多い。一方、製造業のイメージは悪く、肉体労働で仕事がつく、汚れるというイメージがある。しかし、そのようなイメージは現実とは異なる。製造業は今や、コンピューターでシミュレーションや機械の操作を行うハイテク分野だ。

このような誤ったイメージのために、製造業分野の会社の60%ではコンピテンスのある人材が不足している。有能な人材を集めるために、生徒に正しい姿を知ってもらう必要がある。生徒が正しい現実を知るためにPRAOは有益だが、製造業関連の企業は、PRAOについて次のような課題を抱えている。

- ・専門的な仕事内容とPRAOで生徒が行う仕事内容の齟齬

複雑な仕事内容の部門は、中学生のPRAOを受け入れられないことが多い。よって、職場実習で生徒が行う仕事は、知識のある生徒にとって魅力あるものになっていない。

- ・生徒の学習を指導する時間の欠如

2週間の実習は長い。忙しい企業では、実習生の受け入れは困難である。

- ・安全性の確保

製造業は安全性の面から中学生が体験できる仕事が少ない。



(左) セーデルマンランド地域統括 アネッテ・ロジャーズ氏 (右) 地域開発マネージャー レイラ・グロス氏

②トランポリン・プロジェクトの誕生

以上の課題を受けて、製造業の企業のためのキャリア教育プログラムとして、商工会議所がトランポリン・プロジェクトを考案した。企業に時間をとらせずに、生徒が1つの企業について深く学び、かつ社会について広く学ぶことをねらいとする。また、トランポリン・プロジェクトは中学生（基礎学校の7～9年生）を対象とする。効果的な人材育成のためには、職業選択につながる高校選択前の生徒にアプローチしなくてはならないためである。

2007年春から具体的な実践準備を始め、2007年9月から実践を開始。ストールフォーシュ中学校は、少し遅れて参加した。現在は、ストールフォーシュ中学校を含めて東部スウェーデン内の様々な地域にある6校の中学校と20社の企業を結び、活動を行っている。現在、中部ダーレン地方、ヨテボリ地方の商工会議所も、同様の方法で活動している。

プロジェクトは、商工会議所の参加企業が払う会費で実施されている。予算は年間400,000sek（680万円、1sek=17円として算出）。

③トランポリン・プロジェクトのカリキュラム

7～9年生の生徒が、具体的な企業について学習を深めながら、かつ広い社会の全体像を学ぶことを目指す。生徒は3年間を通して、1つの企業を対象にもちつつ、その企業について、また、その企業を取り巻く社会について学習する。

図表2-6 トランポリン・プロジェクトのカリキュラム



(7年生)イントロダクション:興味のある分野の企業について知る

その企業は何をしているのか? どのような人が働いているのか?

- ・ 秋学期に1時間の出張講義。基礎的なことを話す
- ・ 春学期に企業見学

(8年生)深める:企業についての理解を深める。

企業の中にはどのような職種があるのか?それにはどのような教育が必要なのか?

キャリアを積む可能性や自己教育の可能性は?

振る舞い、モラル、エチケットについて、企業はどのような文化をもっているか?

- ・ 秋学期に出張講義
- ・ 春学期に企業見学
- ・ テーマ学習(企業の担当者が指導)

(9年生)全体を見る:企業の全体像を理解する

労働市場、競争、顧客について、企業の立場に立てばどのような考え方ができるか?

- ・グループでのテーマ学習(企業の指導)
- ・グループでの企業訪問。教員も企業訪問する

(出典) トランポリン・プロジェクト 企業用・生徒用パンフレットより

④ストールフォーシュ中学校へのトランポリン・プロジェクトの導入

大規模なストールフォーシュ中学校では、トランポリン・プロジェクトを全クラスで一斉に導入することは困難だった。そこで、2007/08 年度は7年生の半数の生徒を対象に、トランポリン・プロジェクトを導入した。彼らは、8・9学年でもトランポリン・プロジェクトを行う予定である。トランポリン・プロジェクトの対象となる生徒は、従来の PRAO は行わない。

第7学年の他の生徒は、前年度同様、毎年1週間の PRAO を行う。8・9年生も、従来の PRAO を行っている。

図表 2-7 ストールフォーシュ中学校でのトランポリン・プロジェクトの実践

7年生	(事前)進路カウンセラーと PRAO コーディネーターが企業訪問・打ち合わせ (秋学期)企業の出張授業 (春学期)生徒が企業見学 ＜参加企業と担当クラス＞ <table><tr><td>クラスー企業</td><td>クラスー企業</td></tr><tr><td>AーICA</td><td>E, FーVolvo</td></tr><tr><td>BーFuji Autotech</td><td>G, KーCalix</td></tr></table>	クラスー企業	クラスー企業	AーICA	E, FーVolvo	BーFuji Autotech	G, KーCalix																																																
クラスー企業	クラスー企業																																																						
AーICA	E, FーVolvo																																																						
BーFuji Autotech	G, KーCalix																																																						
8年生	・労働生活週間 PRAO のかわりに、企業の出張授業、社会見学、将来の職業や進路に関わる学習を行う。2008/09 年度の秋学期に第2学年(8年生)が初めて実施予定。 ＜労働生活週間スケジュール予定＞ <table><tr><td>時間</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td></tr><tr><td>9:00～9:30</td><td colspan="2">イントロダクション</td><td colspan="2">勤労と職業について</td><td>労働組合について</td></tr><tr><td>9:30～10:00</td><td colspan="2">映画</td><td colspan="2">情報について</td><td></td></tr><tr><td>10:30～12:00</td><td colspan="2">目標設定</td><td>映画</td><td colspan="2">進路選択</td></tr><tr><td colspan="6">午後</td></tr><tr><td>13:00～16:00</td><td colspan="5">出張授業①</td></tr><tr><td>Komtek</td><td colspan="5">企業訪問</td></tr><tr><td>Assa</td><td colspan="2">職業について</td><td colspan="3">出張授業②</td></tr><tr><td>地域新聞社</td><td colspan="5">将来の職業・まとめ</td></tr></table> ※Komtek はコミュニケーションと労働庁運営の科学技術スクール、Assa はセキュリティ関連の製造業	時間	月	火	水	木	金	9:00～9:30	イントロダクション		勤労と職業について		労働組合について	9:30～10:00	映画		情報について			10:30～12:00	目標設定		映画	進路選択		午後						13:00～16:00	出張授業①					Komtek	企業訪問					Assa	職業について		出張授業②			地域新聞社	将来の職業・まとめ				
時間	月	火	水	木	金																																																		
9:00～9:30	イントロダクション		勤労と職業について		労働組合について																																																		
9:30～10:00	映画		情報について																																																				
10:30～12:00	目標設定		映画	進路選択																																																			
午後																																																							
13:00～16:00	出張授業①																																																						
Komtek	企業訪問																																																						
Assa	職業について		出張授業②																																																				
地域新聞社	将来の職業・まとめ																																																						
9年生	・グループでのテーマ学習(詳細は未定) ・高校選択 高校紹介、進学フェアへの参加																																																						

※実施後、企業の PRAO 担当者、教員、生徒、商工会議所にアンケートを実施し、それを基にプログラムを改善する予定である。

⑤トランポリン・プロジェクトへの参加企業

フジ・オートテック株式会社 (Fuji Autotech) <http://www.fujiautotech.se/>

1985年に設立した。従業員数は286人である。

所在地：エスキルスチューナ。日本・静岡県にある富士機工株式会社の子会社。

主な製品：自動車のハンドル部品（ステアリング部品）、テトラパック製造機械。



会社全景



テトラパック製造機械。1人のチーフを中心とする数人のグループで、1つの機械を組み立てから完成までを担当する。



(左) 品質・環境部
セーレン・モーテンソン氏
(右) 人事部
カリーナ・レーフグレン氏

<インタビュー：品質・環境部 セーレン・モーテンソン氏、人事部 カリーナ・レーフグレン氏>

フジ・オートテックは、今まではPRAOを受け入れていなかった。機械をつくる現場は複雑な仕事が多く、中学生には危険が多いためである。

一方、高校生や大学生など、製造分野の専門性を磨くことを目的とする実習は受け入れてきた。しかし、企業が求めるのは製造分野の技術者のみではない。販売、品質・環境、会社の管理・運営など、多様な能力をもった人材が必要だ。トランポリン・プロジェクトでは、このような企業の全体像を生徒に知らせることができる。また、生徒が専門分野を選択する前の段階でアピールし、製造業への関心を高めることができる。企業はこの重要な学習を支える必要があると考え、社会貢献の一環として参加を決めた。

トランポリン・プロジェクトを担当するのは、品質・環境部のモーテンソン氏ら3名。プロジェクトの参加はこれまでの仕事に追加されるため仕事量は増えるが、積極的に取り組んでいるという。

具体的活動内容としては、2007年秋に学校を訪問して出張授業をした。2008年4月に第1回目の企業見学がある。一度に20～30人の生徒が来る。5人程度の小グループを作って企業を一周して見学する。企業内に多様な職種があること、新しい技術が活用されて

いることを理解して欲しいと考えている。

会社として、小さな「カイゼン」を常に積み重ねることを重視している。工場の一画に展示コーナーを設け（カイゼン・コーナー）、そこで毎朝リーダーミーティングを行って、前日までの作業で見直すべき改善点を皆に知らせている。そのような日々の現場で行われている工夫を生徒にも伝えたい。

2-1-3 キャリア教育コーディネーターの仕事

ストールフォーシュ中学校のキャリア教育（PRAO、トランポリン・プロジェクト）のコーディネートを担うのは、PRAO コーディネーターのヴァリス氏、進路カウンセラーのショーストローム氏、東部スウェーデン商工会議所のロジャーズ氏とグロス氏という三者である。以下では、それぞれの履歴・活動・それぞれの仕事に求められる能力を整理する。

（1）PRAO コーディネーター

ヴァリス氏は、ストールフォーシュ中学校で常勤の PRAO コーディネーターとして働いている。PRAO コーディネーターの資格はなく、一般的には専門員はいない。この職は、ヴァリス氏の履歴から自然発生的に生まれ、校長の采配で現在も存在しているのである。

ヴァリス氏は、2000 年まで工業分野の企業で働いていた。2000 年に諸事情により退職する。1 年後、若者のサッカーチームの指導をしていた経験を活かして、ストールフォーシュ中学校のティーチング・アシスタントの職に就く。当時は、ストールフォーシュ中学校も多くの学校と同じように進路カウンセラーが PRAO のコーディネートを行っていた。当時の進路カウンセラーは、現在勤務しているショーストローム氏の前任者だった。

ヴァリス氏がティーチング・アシスタントとして学校に勤務しだして 3 年目、進路カウンセラーが病気になり、ヴァリス氏が PRAO のコーディネートを手伝い始めた。ヴァリス氏は、これ以来 4 年間その仕事を手伝っていた。コーディネートを上手くこなしたヴァリス氏は、進路カウンセラーが定年退職してショーストローム氏が着任した後も引き続き PRAO コーディネーターの仕事を続けている。

①PRAO コーディネーターの主な仕事

《従来の PRAO》

- ・ 企業とコンタクトをとり、実習受け入れ企業を探す
前年度 PRAO を受け入れてくれた企業と生徒が探してきた新規企業に電話をして、PRAO 受け入れを確認。書面にて正式に依頼（図表 2-8）。
- ・ PRAO 企業リストの作成
生徒は、このリストから PRAO 先を決める。2006/07 年度の企業リストには 41 社が記入されていた。
- ・ 生徒に実習場所を割り当てる
- ・ PRAO で使用する書類を作成する（課題チェックリスト、評価表など）
- ・ 各クラスで PRAO の説明をする

《トランポリン・プロジェクト（以下、トランポリン）》

- ・ 各クラスで生徒にトランポリン・プロジェクト（以下、トランポリン）の説明をする
- ・ 商工会議所のコーディネーターとともに、トランポリン受け入れ企業に挨拶に行く
- ・ 生徒たちの企業見学の準備をする
- ・ （来年度以降）８年生の「労働生活週間」の準備をする

図表２－８ ストールフォーシュ中学校 企業への PRAO 実施に関する依頼状

こんにちは。

ストールフォーシュ中学校は全 28 クラスの学校で、PRAO に積極的に取り組んでいます。2007/08 年度の PRAO 実施のために、9 年生の 9 クラスが週 3～4 日の実習場所を探しています。

PRAO は、生徒にとっても、彼らが担う将来の社会にとっても意味のある活動です。生徒は、実際の仕事の様子を知り、学校で学ぶことが職業においてどのように活かされるのかを学びます。

生徒は、学校のオープンスクールの日、実習先の企業についてプレゼンテーションします。貴社の広報活動に、この機会を活かしてください。PRAO は、私たち皆に重要な取り組みです。将来の労働市場は専門的な教育を受けた人材を必要としています。すべての分野で技術が発展し、専門分野を選ぶ高校選択の前の生徒へアプローチすることが重要になってきています。

生徒の実習に向けて貴社に協力をお願いしたく、この手紙を送ります。貴社で実習が可能かどうかお知らせください。

校長

進路カウンセラー

PRAO コーディネーター

ストールフォーシュ中学校
Gillbervägen 5
632 28 Eskilstuna

電話 ×××—×××××
携帯電話 ×××—×××××
e-メール ×××@×××××

-
- ☐ はい、生徒の実習を受け入れます。 実習受け入れ可能人数_____人
- ☐ 一度相談をしましょう。
- ☐ いいえ、残念ですが実習を受け入れることはできません。
その理由は？ _____

会社名 _____

サイン _____

ご返答はファックスか e メールをお願いします。FAX 番号 ×××—×××××

②PRAO コーディネーターに必要な能力・資質

PRAO コーディネーターとしての資格はない。ヴァリス氏は、学校長と相談して、コミュニケーションが提供する次の2つの研修に参加した。

- ・ プロジェクト活動のマネジメント
- ・ プレゼンテーションの技法

ヴァリス氏の考える、PRAO コーディネーターに必要な能力

- ・ 子どもを理解し、共感する能力
- ・ リーダーシップ
- ・ 計画性：自分で、綿密に計画する能力

③PRAO コーディネーターの仕事上の困難

ア．教員との関係

- ・ PRAO の重要性を理解してもらう
- ・ 各クラスで PRAO の説明をする時間を確保する。現在は、社会科やホームルームの時間を使用している。2006/07 年度は、実習前に各クラス3回時間をとった。希望としては、キャリア教育が科目として週に1時間、時間割に組み込まれているとよい

イ．企業との関係

- ・ 実習場所の確保

PRAO の受け入れを拒否する企業が増え、実習場所確保が困難になっている。2007/08 年度は、200 社に依頼し 15 社が受け入れてくれた

理由

- ✧ 高校生の実習が増加している。企業としては、専門性の高い高校生の方が対応しやすいため、高校生の実習が優先され、中学生の実習場所が減っている
- ✧ とくに食料品店で、盗難・万引きが発生
- ✧ 安全性や業務の複雑さの点から、中学生にできる仕事に限られている
- ✧ 生徒が実習をサボったり態度が悪かったりすることがある
- ・ 企業に PRAO の意味・ねらいを理解してもらう
- ・ 企業内の PRAO 担当者に、生徒への指導方法などをアドバイスする

(2) 進路カウンセラー

ショーストローム氏は、ストールフォーシュ中学校で常勤の進路カウンセラーとして働いている。ストックホルム教育大学（現ストックホルム総合大学教育学部）で進路カウンセラー養成コースを修了した。ストールフォーシュ中学校で勤務する以前は、ストックホルムの高校で働いていた。

①進路カウンセラーの主な仕事

- ・ 各クラスで進路選択の話をする。各クラス1年に2回実施。9月上旬に高校進学に関

するカタログを渡す。その後、より詳細な進路選択の話をする。

- ・ 1年に1回保護者会を開き、高校生活・高校選択について説明する。保護者の多くは参加する。10～11月にクラス単位で行う。
- ・ 個別面談（二者・三者）

②進路カウンセラーに必要な能力・資質

ショーストローム氏によれば、進路カウンセラーに必要な資質は下記のとおりである。

- ・ 人間が好きである
- ・ 共感し、相手の立場に立ってものを考えることができる
- ・ 社会性がある

これらに加えて、ヴァリス氏は次の2点も重要だと考えている。

- ・ 異なる状況に対応する能力
- ・ リーダーシップ

③進路カウンセラーの仕事上の困難

ア. 他の学校との関係

- ・ 古いタイプの PRAO を続けていくなれば、地域の実習場所は共通しているので、他の学校とも連携していく必要がある
- ・ コミュニ内各学校の進路カウンセラーが集まって定期的に会議を開いている

（3）トランポリン・プロジェクトコーディネーター

東部スウェーデン商工会議所でトランポリン・プロジェクトを運営しているのは、商工会議所勤務5年目のレイラ・グロス氏と、商工会議所勤務3年目のアネッテ・ロジャーズ氏である。

①トランポリン・プロジェクトコーディネーターの主な仕事

- ・ トランポリン参加企業の募集
企業を訪問し、トランポリンについて説明する。参加しないか尋ねる。
- ・ 学校への企業紹介
- ・ 企業のキャリア教育実践サポート

プロジェクト実施中も基本的には企業に寄り添って活動をする。学校での出張授業について、生徒に伝えるべき内容や講義でのアドバイスをを行う。図表2-9は、そのために作成したガイドブックである。授業に同行し、場合によっては企業の授業前に生徒に対して少し話をする。商工会議所が生徒に授業をすることはない。

図表 2-9 トランポリン・プロジェクト参加企業のためのガイドブック



企業の中で、1人トランポリン・プロジェクトの担当者を選んで下さい。
次のような人が適任です。

- ・ 子どもが好き
- ・ 年齢に関係なくオープンにコミュニケーションがとれる
- ・ 企業のことをよく知っており、分かりやすく説明できる
- ・ プロジェクトのために時間を割くことができる

初めて学校に行く前に、生徒のことを少し理解しておきましょう。

- ・ 学校に行く日を決める
- ・ クラスでの授業の前に、打ち合わせをしましょう
- ・ 学校訪問の前に、生徒から出るとされる問いへの答えを用意しておきましょう
- ・ 企業についての資料を先に送っておきましょう



7年生

<秋学期>

学校への出張授業(10月頃・約40分)

(内容)

- ・ この会社がなぜあるのか、何をしているのか?
- ・ どのようなものを作っているのか?
- ・ どのような人が働いているのか?

(アドバイス)

- ・ 相手は若者。形式ばらず、簡単な言葉を使って
- ・ 文字を少なく、絵を多く使って。会社の場所、製品、スタッフ紹介など
- ・ 可能ならば実物を持参して
- ・ 対話するために、生徒に質問してみましょう
- ・ 生徒が興味をもち続けられる終わり方を

<春学期>



企業見学(3月頃・約1時間)

(アドバイス)

- ・ 生徒たちが企業に着いたら、集合してもらって予定を伝えましょう
- ・ 見学中にとくに気をつける点があれば、先に伝えておきましょう
- ・ 少人数にグループ分けをしましょう
- ・ 生徒が持ち帰れる製品があれば渡しましょう——実物の感覚を伝えるために！
- ・ 会社の中にも、更衣室、お手洗い、休憩室などがあることを忘れずに見せましょう
- ・ 企業見学の後に取り組める課題を示しておきましょう

8年生

8年生では、企業について、そこで働くスタッフの能力や教育に焦点をあてて理解を深めます。

<秋学期>

学校への出張授業(時期はクラスと調整・約 40 分)

(内容)

- ・ 会社の中にはどのような仕事があるのか？
- ・ どのような教育が必要とされるのか？
- ・ 収入は？
- ・ キャリア向上の可能性は？研修の機会は？
- ・ どのような服装、モラル、エチケットが求められるか？
- ・ 就職活動の際に考えておくべきことは？履歴書はどのように書くべきか？

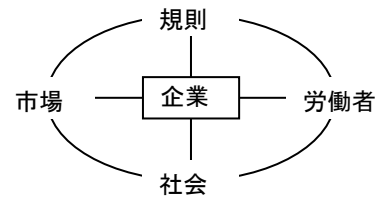
<春学期>

企業見学(時期はクラスと調整・約1時間)

(ポイント)

- ・ 社内の各部署でそれぞれのスタッフがどのような仕事をしているか？
- ・ 企業内の日常はどのようなものか？誰が誰と協力しているか？
- ・ 特別な服装で仕事をしているか？それはなぜ？

考えてみましょう——見学を通して、生徒は職業観を変えたでしょうか？



9年生

9年生では、企業の全体像、および企業をとりまく社会について学びます。

<秋学期>

学校への出張授業(学期の早い時期・約 60 分講義)

- ・ 企業の歴史
- ・ 企業理念
- ・ 競合企業、顧客、市場について
- ・ どのような資産があるか——不動産か、動産か？
- ・ 将来の展望
- ・ 会社の形態

春学期の企業見学に備えて総合的な学習の課題を与えましょう。例:労働市場の変化、職場の設備、労働環境と環境問題

(アドバイス)

- ・ 生徒に総合的な学習の準備をさせましょう
- ・ 総合的な学習について、企業のねらいを明確にしましょう
- ・ 総合的な学習に先立って、クラス担任と話し合っておきましょう

<春学期>

秋学期の出張授業後に生徒が行った総合的な学習の成果を、各企業に行って発表(3月末以降・時間は適宜)。

(アドバイス)

- ・ プレゼンテーションに必要な機器を準備しておきましょう
- ・ 生徒のプレゼンテーションを、多くのスタッフで見ましょう。社長も是非！
- ・ 多くの聴衆を迎えましょう。最後が楽しければ、それだけ生徒の記憶に残ります

2-2 ブレケット中学校 (Bleketskolan)

ショーン・コミュニティにあるブレケット中学校は、近隣のヘッグバル中学校 (Häggvallskolan) の進路カウンセラーと共同で、島内の企業と連携して PRAO を実施してきた。2006/07 年度からは、学校開発庁の開発指定校に選ばれ、新しい形態のキャリア教育を実施している。その取り組みの核は、PRAO のみでは扱いきれなかった多様な職業について学ぶことをねらいとするテーマデー「企業からの訪問」である。広い社会について学ぶという点、および、進路カウンセラーのみでなく学校の教職員全体で、教育活動全体を通してキャリア教育を進めようとしている点から注目されている。

2-2-1 学校の概要

(1) 地域：ショーン・コミュニティ (Tjörns kommun)

スウェーデン第二の都市ヨーデボリの北約 70km にある。面積 168 km²、人口約 15,000 人の、岩山でできた島。

ショーンには 9 つの基礎学校がある。うち 2 校 (ブレケット中学校とヘッグバル中学校) が 7～9 学年を設置している。島内の高校教育は、教育センター (UCT) で成人教育機関とともに行われており、13 のプログラムがある。

(2) 学校の組織構成

2007/08 年度、7～9 学年、各学年 4 クラスの計 12 クラス。この他に、特別学級がある。生徒数は、1 クラス 20～25 人で各学年約 100 人、全校で約 308 人である。学校内は、職員・生徒ともに、2 つのグループ (グループ A とグループ B) に分かれており、それぞれに学校長がいる。各学年 2 クラス、計 6 クラスが 1 つのグループを作っている。グループ A とグループ B にカリキュラム上・教育方法上の違いはない。学校生活を小さな集団で行うことが小グループに分けるねらいである。各グループは校舎のフロアが分かれており、1 つの校舎の中で異なる 2 つの学校のように活動している。基本的に、生徒・教員がグループを移動することはない。

この他に、特別支援学級のグループ Oasen がある。また、進路カウンセリング、図書館など、教科外の活動はグループの別なく共通して行われる。このような学校全体に共通する活動の教員集団は、STABEN というグループを組織している (図表 2-10)。

図表 2-10 ブレケット中学校の組織

	A	B	Oasen	STABEN
生徒	7～9年各2クラス		特別支援教育	
	7A、7A'、8A 8A'、9A、9A'	7B、7B'、8B 8B'、9B、9B'		
教員	学校長 アンネリ・グスタフソン	学校長 ブリット＝マリ ー・ラストマン	6人(数学、英語、 スウェーデン語など)	学校長、学校長秘書、ティーチング・ アシスタント、用務員、進路カウンセ ラー、図書館司書、養護教諭

（３）キャリア教育を担う人

ブレケット中学校には現在、非常勤の進路カウンセラー（レーナ・ウィッドゴード氏）がいる。ウィッドゴード氏は進路カウンセラーとして勤務５年目で、週 20 時間（常勤の勤務時間の半分）働いている。彼女がグループ A と B 両方の生徒の進路カウンセリングを担当する。仕事量が多いので常勤職員として働きたいが、予算の関係で非常勤となっている。

PRAO については、同じ島内にあるヘッグバル中学校の進路カウンセラーを約 25 年務めるインゲマール・ペットソン氏と連携している。



（左）進路カウンセラー レーナ・ウィッドゴード氏

（右）校長 ブリット＝マリー・ラストマン氏

２－２－２ キャリア教育の実践

（１）2005/06 年度の PRAO 実践

８年生は春学期に２週間、９年生は秋学期に１週間の PRAO を実施した。多くの場合 1 企業が 1 人の生徒を受け入れる。各生徒は、第 8 学年と第 9 学年とで異なる企業で実習する。分野の異なる企業で実習するよう配慮しているが、特別な基準はつくっていない。

①PRAO の評価について

評価成績は、教科とは異なり、独自の修了証書が渡される。よく働いた、時間を守れなかった等、企業の担当者からのコメントが記される。公的に正式な成績にはならず、高校入学には関係ない。夏休みのアルバイトを探す時に役立つこともある。

②PRAO の成果

PRAO の成果として、次の 3 点があげられた。

- ・ 生徒がその職業を実際に体験することができる
- ・ 成人の世界を知る
- ・ 現実の仕事を知る

③PRAO の課題

PRAO の課題として、次の 2 点があげられた。

- ・ 実習場所確保が難しい

最近では、高校でも実習が増加している。企業にしてみれば、高校生の方が労働力になる上、雇用につながる可能性が高いので好ましい。そのため、中学生の実習場所が減っている。PRAO の実習場所を生徒自身に見つけさせる学校もある。生徒が自分で電話するのも大切だけれど、親の職場など、身近で安易な実習場所を選んでしまったりする。

- ・ PRAO では、特定の狭い世界のことしか知ることができない

生徒が実習に行くのは2つの企業のみで、それ以外の企業を知らない。学校での教科学習において PRAO の活動と関連させた学習は行われにくく、生徒が PRAO の経験を伝え合い理解しあう場が少ない。また、仕事に危険が多く伴う製造業など、中学生が行けない職場も多いため、PRAO のみでは生徒が学習できる分野が限られる。

④工夫

以上のような課題を乗り越えて PRAO を推進していくために、PRAO バンクの活用やコミューンの労働局との連携を進めている。

・ PRAO バンク（企業リスト）

ヘッグバル中学校と共同で運用。20 年くらい続いており、現在コンピューター化している。連絡をとったことのある地域の企業を、約 600 リストアップしている。毎年 60 ～70 企業で実習を行う。多くの場合、1つの企業が1人の実習生を受け入れる。

2人で協力して、常にこのリストを更新している。更新の方法は主に2通り。

1. 生徒からの情報をもとに追加。
2. 進路カウンセラーが調べて新規開拓。前年度実習生を受け入れてくれた企業が今年は無理となると、他の同業者に電話する。毎年、5企業は新規開拓する必要がある。

ション島内には、多くの中小企業がある。大工や個人企業など、特別に事務所を構えていない企業も多い。リストには、各企業の担当者が記入してあり、直接その人にコンタクトをとる。このように担当者まで管理して企業リストを効率的に運用している学校は少ない。

・ 休暇中実習（Feriepraktik）

夏休みのインターンシップ。コミューンの労働局 (arbetslivsenheten) のプログラム。労働局の仕事は、もともとは若年失業者を対象としたサービス提供が中心だった。休暇中実習は第8学年の生徒向けに、進路カウンセラーと連携して計画・実施している。

実施期間は約3週間。あまり多くの生徒が参加できるわけではない。以前にその企業の実習に参加したことのない生徒が選ばれる。だいたい PRAO と同じ企業。実習を行った生徒には、労働局から1時間 35sek（約 600 円、1 sek=17 円として算出）の報酬が払われる。

（２）新しいキャリア教育の実践

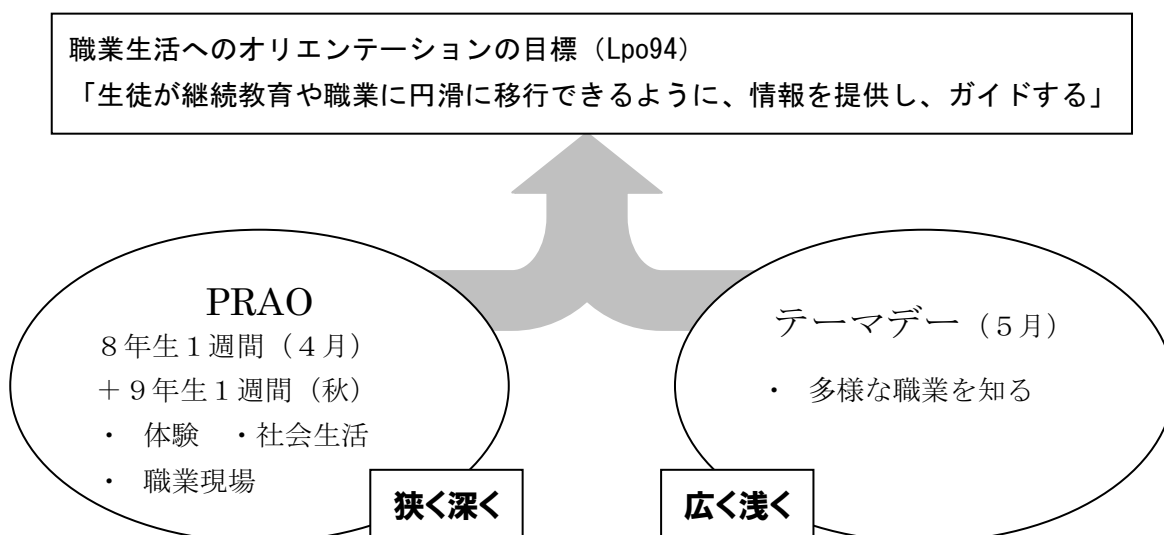
テーマデー 「企業からの訪問(omvändstudiebesök)」

企業で働く人をゲスト講師に招き、出張授業をしてもらう。ウィッドゴード氏が計画し、コーディネートしている。消防署、銀行、化学工業分野の企業、ベーカリー、音楽家など、12種類の職種のゲストに職業について語ってもらう。

8年生で2週間行っていた PRAO を1週間に短縮し、1週間をテーマデーにあてた。2006/07年度より開始。企業に対する報酬はない。PRAOと同様、ボランティアで来てもらっている。

テーマデーのねらいは、多くの人の話を聴くことで、生徒が自分の実習した企業のみでなく、広い社会のことを知り、理解すること。PRAOでの実際の体験と、テーマデーで得た知識や理解を合わせて、「生徒が継続教育や職業に円滑に移行できるように、情報を提供し、ガイドする」という、教育プランに掲げられているキャリア教育の目標を達成することを目指す（図表2-11）。

図表2-11 ブレケット中学校の新しいキャリア教育の実践



①テーマデーのカリキュラム

テーマデーには、第8学年4クラス全員が参加する。各クラスは、4つの教室をローテーションで指定された時間に回る（図表2-12）。4つの教室にゲストが1人いて、それぞれの職業の話をする。生徒は、1日4人、3日間で合計12人の話を聴くことになる。加えて、別の日に消防署から10人の消防士が来校し、生徒全員に話をする。

図表2-12 テーマデー「企業からの訪問」の時間割

クラス	8A	8A'	8B	8B'
9:10~9:45	A	D	C	B
9:55~10:30	B	A	D	C
10:40~11:15	C	B	A	D
11:25~12:00	D	C	B	A

(A：ベーカリー店主、B：化学工業分野の会社員、C：銀行員、D：音楽家)

②テーマデーの評価

生徒・教員・企業それぞれのフィードバックは肯定的。次年度は、第9学年の実施も検討している。

ア．生徒のメリット

- ・たくさんの新しい仕事を知ることができる

イ．学校のメリット

- ・多くの教員が活動内容を知り、キャリア教育に関わるようになる
- ・経済的
- ・実習場所を訪問するよりも教員の労力が少ない

ウ．企業のメリット

- ・生徒に自分の職業を理解してもらえる
- ・自分の仕事に興味を持ってもらえる
- ・生徒からの質問を通して、自分のことを振り返ることができる
- ・将来のリクルートにつながる。現実の姿を知ってもらえる

2-2-3 キャリア教育コーディネーターの仕事

ブレケット中学校のキャリア教育をコーディネートするのは進路カウンセラーである。その活動を、校長は経済面や対外的な関わりの面から支えている。進路カウンセラーの仕事の一覧は図表2-13のとおり。キャリア教育に関わる仕事の中心は、高校選択の支援とPRAOのコーディネートである。

図表 2-13 進路カウンセラーの仕事（ウィッドゴード氏の 2007/08 年度業務表より）

<秋学期> 高校選択 ・ 9 年生各クラスで高校選択の説明、願書の書き方 ・ 保護者に高校の情報を与える ・ 高校訪問をコーディネートする ・ 秋学期の成績を高校入学システムに登録する 情報提供 ・ 地区の学校フェスタ・教育フェアに参加 ・ 教師への高校・大学に関わる情報提供（例えば、大学入学条件の改訂など） PRAO ・ 受け入れ企業との連絡・コンタクト ・ 8 年生 PRAO 実施・訪問 その他のキャリア教育 ・ テーマデーの広報（300 企業） ・ テーマデーの実施 会議の調整・準備 ・ 保護者会の準備 ・ 特別学級生徒のオリエンテーション準備 ・ グループ教員会議の準備をする	<春学期> 高校選択 ・ 進路選択カウンセリング ・ 生徒の希望登録確認 ・ 進学先決定のプロセス（再選択など）支援 ・ 遠方の高校を希望する生徒についての会議 ・ 個人プログラムを訪問 PRAO ・ 8 年生向け PRAO の教材をつくる ・ 9 年生 PRAO 実施・訪問 ・ 受け入れ企業との連絡・コンタクト その他のキャリア教育 ・ テーマデーの講師にアポイントをとる ・ 休暇実習の計画会議 ・ スウェーデン労働組合総連合の出張授業（第 9 学年）調整・準備 会議の調整・準備 ・ 生徒の進学先の学校と、進学者に関する伝達 ・ 地域の進路カウンセラーの会議（近隣地域 13 人のカウンセラーが参加）
<共通> 継続的に ・ PRAO 受け入れ企業・テーマデーの講師を探す ・ 情報収集・提供（労働市場について、高校や大学の入学要件、オープン・スクールについて） 会議の調整・準備 ・ 教員総会 ・ 生徒の保健に関する会議（隔月） ・ 特別カリキュラムのための会議（月 1 回） ・ グループ会議（月 1 回） ・ 運営グループ会議（学期に 2 回） ・ 特別なニーズが必要な生徒のための会議（月 1 回） ・ 進路カウンセラーと学校長との会議（随時）（ブリット＝マリー校長と）	

（１）高校選択に関わる進路指導

ア．各クラスで高校について話をする

ビデオ、カタログを用いて、高校のプログラムについて紹介。

イ．保護者会

ほぼ全員の保護者が参加。約半分がその後三者面談を求める。

ウ．高校訪問

近隣の２つの高校（ネースネス高校、UCT）の見学。担任が連れていく。２種類のプログラムを見学する。

エ．三者面談・個人面談 （１人 20 分～1 時間）

基本的に任意。半数（50 人）は三者面談を希望し、20～30 人が個人面談を希望。残り 20～30 人が来ない。すでに決断している生徒は来ない。担任からみて面談が必要な生徒が面談に来ない場合は、担任から薦める。例えば数学がとても苦手なのに自然科学プログラムには行けないなど、選択の際には、得意・苦手な教科と進路を考える必要がある。気になる生徒については担任と連携。各生徒の様子を校長にも報告する。

（２）PRAO のコーディネート

PRAO のコーディネート手順は下記のとおりである。

ア．秋に、PRAO 受け入れの依頼文書を企業に送る。60～70 企業＋新規開拓した企業。

イ．実習が可能な企業（約 50 企業）をリストアップし、生徒に冊子を配布。

ウ．各生徒に実習先の希望を聞く。約 20 人の生徒は自分で実習先を探してくる。

エ．希望をもとに、生徒の実習先を決定する。複数の応募があった場合は抽選。

オ．生徒の実習先が決まったら、企業に実習生徒の情報を送る。

カ．1 週間、2 クラスの生徒（約 50 人）が同時に PRAO に行く。

キ．PRAO 中、ウィッドゴード氏は実習先を訪問。挨拶をする程度。すべての実習場所を回することは不可能。時間的余裕があれば担任も手伝う。

2-3 スウェーデン経団連による PRAO 教材・指導書 『実習にて (I PRAKTIKEN)』

スウェーデン経団連は、生徒向けの PRAO 用冊子の他、企業と教員それぞれに向けて PRAO のための教材・指導書を 2007 年秋に開発した。ここでは、その内容を紹介する。

2-3-1 『実習にて』開発の背景と利用状況

PRAO の質は、学校によって、そして受け入れ先の企業によって大きく異なる。学校と企業が相互に理解して、PRAO の質を保つため、とくに企業側が PRAO 実施に関するマニュアルを必要とした。このニーズに応じて、実習中に使える教材に加えて、PRAO の事前準備から事後のフォローアップに至るまでのガイドブックとして、『実習にて』は開発された。これは、生徒用冊子、学校用および企業用のファイル（教材と指導書）という 3 種類がある。現在の配布部数は、生徒用冊子 80,000 部、学校用ファイル 10,000 部、企業用ファイル 15,000 部である。この教材を使用している学校はまだ少ない。

2-3-2 内容

(1) 『実習にて——生徒用』

4 人の生徒の PRAO の感想から始まり、PRAO への動機づけをしている。PRAO の前に、自分自身は何がしたいかを考えさせ、同時に、現在の自分がアクセスできる社会を的確に捉えさせる。つまり、自分のネットワークを知るのである。これは、現実的に自分がコンタクトをとれる知人を書き出すという 1 つの課題として含まれている。PRAO の準備として、実習先企業へのコンタクトのとり方、事前準備の方法などが細かく載っている。



PRAO 中の注意事項として、職場での第一印象の重要性、ルールやマナーが説明されており、続いていくつかの課題が載っている。課題は、会社のプレゼンテーションをしたり、お客様への対応をチェックしたり、どんな人と一緒に働きたいかを考えたり、企業の経済面でのやりくりを考えたりするものである。これらは、学校・企業用の教材と対応している。そして最終日の礼儀などに関する注意書きもある。

事後学習として、学習のまとめや将来の自分のために考えておくことが書かれている。最後に、誰にでも起業は可能だということ、起業のための具体的な条件などが載っている。

「PRAO は、企業が将来の同僚と会い、若者のニーズや興味を理解する良い機会」というスタンスで、実習中の活動や学校との連携について具体的なアドバイスをする。

指導書には、実際に実習を受けた生徒の声や具体例が写真とともに多く取り入れられている。企業にありがちな不安や困難を例示し、現実的な対処法の例を載せるなど、実情を踏まえて企業の側に立って作られている。

Möjligheterna med prao och praktik

3. GENERATIONSVÄXLING

Att hitta medarbetare med rätt kompetens är en utmaning i dag, och lönerne att rätta till ett större stödproblem i framtiden. När avslutats har jag i pension ska svare på om det är önsket arbetssättet existerar. Genom att rätta samman med skolan kan en företag lyfta värdefulla kontakter och vidare en attraktiv arbetsgivare för framtida medarbetare!

4. HOJ STATISTIK OCH INTERESS FÖR BRANSCHEN

Den gre tvekar i våra primära. Ädelare presentera undersökningar om vissa branscher som är hetast just nu. När vi tar form en bransch som är mest intressant i arbetet har vi också praktisk information på påverka de våra intressen för just branschen. Överensgri som exempelvis ett företag som arbetar på högskolan när de vill inriktnig till gymnasiet. Går i gymnasiet finns i sin tur ofta grunden för elevernas framtida yrkesval.

Som företagare har man en unik tillfälle att påverka och motivera eleverna i sina framtida yrkesval.

Lantbrukshögskolan Svalöv är ett företag som arbetar biotekniskt och planerar för framtidshögtidigheter. Ett nära samarbete med skolan och fler aktörer gör att entreprenörerna kan pröva idéerna snabbt och enkelt. I följande intervju berättar vi om hur det fungerar och Svalöv har ett utvald och väl moderat industriområde i närheten. Birgitta Wöckling, som är samfundsinriktad biotekniker på Svalöv, berättar att om man inte aktiverar i arbetet själv, så kan man inte förvänta sig att det ska bli så.

- ## 2. PRAO／実習の準備

企業として実習を行う目標を設定することを促す。

・指導者を決める——もっとも大切なこと

- ・若者に興味がある
- ・企業のことをよく知っている
- ・時間が守れる
- ・社会的で元気がある
- ・フィードバックができる
- ・生徒にとって良い例になる

《指導者の活動を上手に進めるためのアドバイス》

- ・生徒とランチを食べよう ・たくさん質問してもらおう ・企業を知ってもらおう
- ・仕事のアドバイス、秘訣、自分の経験話をしよう ・望んでいることを生徒にはっきり伝えよう
- ・こちらから声をかけよう ・生徒自身のアイデアを大切にしよう
- ・生徒の至らない点は、次につながるよう指摘しよう ・仕事について話をしよう

《指導者の仕事 チェックリスト》

- ☐ 実習前に学校や生徒とコンタクトをとる ☐ 生徒への希望と要求を明確にしておく
- ☐ 生徒の時間割を作る ☐ 企業内に生徒を案内する ☐ 実際の活動中、生徒を指導する
- ☐ 質問に答え、生徒を助ける ☐ 企業の活動について生徒に理解してもらう
- ☐ 労働環境に配慮する ☐ 事故があった場合、学校に報告する

・指導者のおもしろさ

指導者の大切さ、おもしろさ、社会的な役割と影響力の大きさを記す。

・学校と連絡をとる

企業から学校／コミュニンへのアプローチを促す。

《学校と話し合っておくこと チェックリスト》

- ☐ 企業の活動内容 ☐ 企業が実習を受け入れる理由 ☐ 生徒の活動内容
- ☐ 生徒の活動時間 ☐ 実習に関する学校の目標・ねらい
- ☐ 実習に関連する授業(例:労働市場や企業について)
- ☐ 実習中に生徒が取り組むべき課題(問題解決など) ☐ 実習に関する学校からの要望
- ☐ 学校の担当者 ☐ 生徒への連絡事項 ☐ 安全策とその他労働環境

・仕事内容と計画： 実習中の具体的な活動内容と時間割の計画例(図表2-14)。

図表 2-14 時間割例

月	火	水	木	金
8.00 受付 担当:〇〇〇〇	8.00-12.00 営業部 担当:〇□□〇	8.00-12.00 マーケティング・広報部 担当:〇〇〇〇	8.00-12.00 経理・人事部 担当:〇〇□□	8.00-10.00 受付 担当:〇〇〇〇
8.10 オリエンテーション 活動内容の説明				10.00-12.00 業務部 担当:△△□□
9.00 社内見学				
10.15 製造部 1 担当:△△△△				
12.00 昼食 担当:〇〇〇〇	12.00 昼食	12.00 昼食 ここまでの実習を振り返りながら 担当:〇〇〇〇	12.00 昼食	12.00 昼食
13.00 製造部 2 担当:□□□□	13.00-16.00 事業部 担当:〇〇△△	13.00-16.00 マーケティング・広報部 担当:〇〇〇〇	13.00-16.00 経理・人事部 担当:〇〇□□	13.00-15.00 まとめ 担当:〇〇〇〇
14.30-16.00 製造部 3 担当:〇△〇△				15.00-16.00 送迎会

説明

製造部／製品	営業部／事業部	マーケティング／広報部	経理部／人事部	受付／業務部
製造部は実際に製品を作り出すところです。本社では3ステップに分かれています。	営業部は顧客に対応し、事業部と協力して将来の方向性を定めます。	マーケティング／広報部は、企業の内外の戦略と情報提供を統括します。	経理／人事部は、労働者の問題や賃金を取り扱います。	受付／業務部は、企業の窓口です。今何が起きているのかを把握します。

(出典) I PRAKTIKEN företag p. 22 をもとに作成。

3. PRAO／実習中

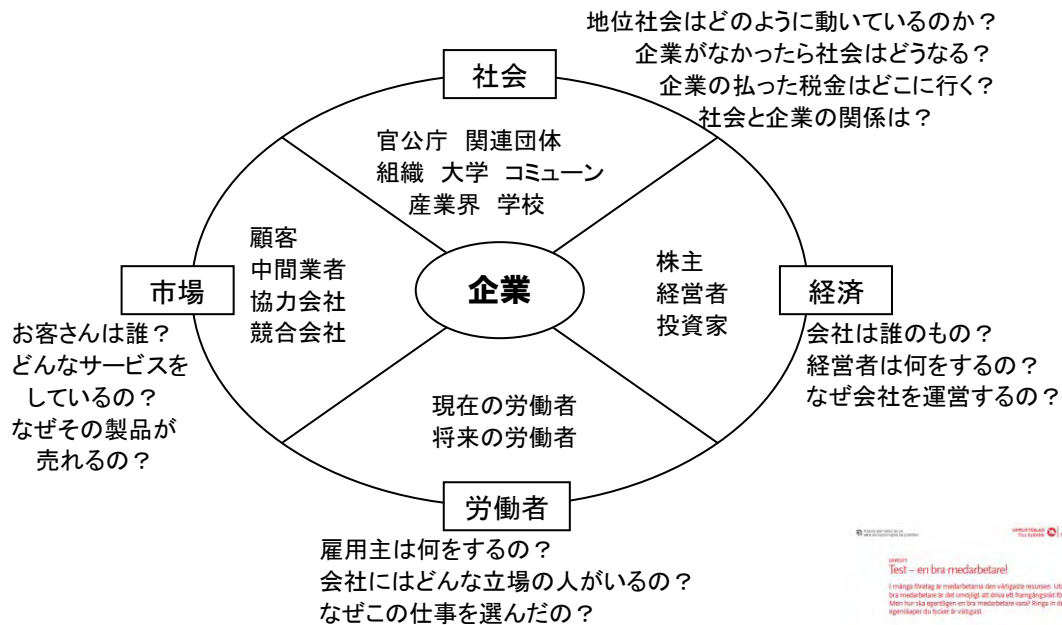
1 日 目

生徒の到着前に名札を作る、活動場所を整える、受付をはじめ社内に知らせておく等、細かい気配りが書かれている。生徒が来たら、オリエンテーションをし、社内に慣れるように、多くの同僚に声をかけながら案内する。

活動課題

企業が利用できる生徒の活動課題が7つ載っている。全体を通して、企業が、社会、市場、労働者、経済といった複数の側面をもって活動していることが理解できるようになっている(図表2-15)。

図表 2－15 生徒の活動課題の基盤にある企業像



（出典）I PRAKTIKEN företag p. 28 をもとに作成。

《活動課題》

(1) 会社のプレゼンテーション

企業のことをよく知り、他の人にプレゼンテーションする。

(2) お客様への対応チェック

顧客に満足してもらうために企業の人がしている工夫、対応を分析する。

(3) 広報活動

どのようにマーケティングが行われているかを調べる。

(4) よい同僚とは？

企業で働く一人ひとりが重要で、多様な性格の人が協働する必要があることを理解する。自分の性格をふりかえる。

(5) 企業の家計簿

企業には多様な支出があることを理解する。顧客からの収入は、人件費、税金、施設費、消耗品、投資家への還元などになる。

(6) 人の輪を広げよう

企業の中で働く人々に、プロフィールや仕事内容を聞く。多様な人からそれぞれに学ぶことがあること、人のつながりと協働が大切であることを理解させる。

(7) 起業家って特別？

起業家についての〇×クイズを通して、誰もが起業できることを理解する。

最終日

生徒からの PRAO 評価

実習修了証例



4. PRAO／実習の後

- ・社内評価
- ・学校との連絡

5. 他の形での学校との連携

学校訪問、企業見学、メンターシップ、担当企業など、実習以外の方法で学校と連携する方法を示す。

学校と産業界の連携を促進している4つの具体事例を紹介。

6. 法令

未成年である 18 歳以下に適用される労働条件について。

7. DVD

(11 分)コメディアンが2つの小企業の1日を追う。目立たないところに多くの職業があること、企業がお金以外のことに配慮して活動をしていることを伝えている。



(3) 『実習にて——学校用』

大枠は企業用と同じ内容・形式で書かれている。学校向けに、他教科との関連について詳しく書かれていることが特徴である。進路カウンセラーのみでなく、多くの教員が協同して PRAO に取り組めるようにするためである。以下では、企業用ファイルと異なる部分を紹介する。

<内容より抜粋>

1. どうして PRAO／実習をするのか？

・ PRAO/実習のメリット

- ①学習への動機づけ: 実習を通して、スウェーデン語や算数などの教科も今までとは違う視点からみられるようになり、学習への関心が高まる
- ②教育の魅力向上: 産業界との連携により、教育の質が向上し、人気が上がります
- ③連携の新しい形式

2. PRAO／実習の準備

・ 学習の目標を設定する 学校として実習を行う教育目標を設定する。

教科学習との関連を考えて、実習を学校年間教育計画の中に位置づける。

《目標例》 ・社会、歴史、経済といった教科の目標の中に織り込む

・学校での教科学習の中で実習の事前学習にあたる課題を取り扱う 等

3. PRAO／実習の事前学習

・いろいろな教科での、会社と産業についての授業例をあげている

《歴史》

スウェーデンの発展において、産業が重要な役割を果たしてきたことを取り上げる。

例)・1870年代の産業発展・スウェーデンの偉人達・社会主義と資本主義・地域産業の発展

《数学・経済》

スウェーデンの現状に関する数値、グラフ、表を利用する。企業の会計、経済発展を取り上げる。

《社会》

次のようなテーマを取り上げる。

例)・税金・国際化・利益・企業の目的

《地理》

地理的な状況が、産業や企業運営に深く関わってきたことを取り上げる。

例)・農業などの生産物の分布と産業・国際紛争などの政治的状況と産業

《スウェーデン語》

読み書き両方で、職業においてスウェーデン語の学習は重要。次のようなテーマを取り上げる。

例)・求職票を書く・実習についての作文・実習前の面接・他の人のニーズ

《英語》

スウェーデン語と同様の課題を英語で行う。

《理科》

産業は科学技術とともに発展してきたことを取り上げる。

例)・自然科学と発展・環境問題

・教科横断的な学習の例

①学校の会計

：学校の収入と支出から、学校に関わる多様な企業や産業があることを学ぶ。

②地域の企業

：歴史、スウェーデン語、理科の観点から、地域の産業について学習する。

③誰もがどんな職業にでも就けるのか？

：企業の中で、多様な能力が必要とされていることを理解する。

④企業が払う税金のゆくえ

：例えば保育にかかる税金がいくら考える。社会や数学の観点から学習する。

⑤お金をかけずに環境保護できるか？

：実習企業における環境保護の取り組みを知る。理科、数学などの観点から学習する。

⑥簡単に宣伝するには？

：小企業の宣伝方法を考える。

2-4 スウェーデンのキャリア教育のまとめ

以上、スウェーデンにおけるキャリア教育の実践事例および教材を検討してきた。スウェーデンの中学校におけるキャリア教育としては、PRAO という職場実習が伝統的に行われてきており、そのコーディネーターは進路カウンセラーという専門職が担っていた。ここではまとめとして、取り上げた事例から指摘できる特徴を2点あげておく。

一点目は、自由な実践上の工夫を可能にする人事・経済面でのバックアップが存在することである。ストールフォーシュ中学校では、校長の裁量によってキャリア教育コーディネーターが特別配置されていた。ブレケット中学校では、予算や具体的な活動の実施に関して校長が積極的にキャリア教育の実践に協力していた。また、キャリア教育を改善する取り組みを、学校開発庁という中央当局が支援していた。

二点目は、キャリア教育の内容が、PRAO による職場実習から広い社会の学習へと変化していることである。この変化によって生徒は多様な職業のことを学び、目前に迫っている高校選択を広い視野から考え直す。つまりこの変化は、生徒に自分自身と社会とを結びつけて考える契機を与え、生徒が自分の進路を決めていく基盤としてのキャリア教育の位置づけを強化しているといえよう。

現在、伝統的に行われてきた PRAO は実施上の困難さや中学卒業後の就職者減少のために縮小傾向にある。しかし、学校と産業とのつながりが軽視されているわけではない。産業界や学校当局や研究者は、積極的にキャリア教育に関するプロジェクトやイベント、教員研修、教材開発を進めている。そしてこれに呼応して、学校現場では新しいキャリア教育の形が模索されている。このようにスウェーデンでは、各学校独自の裁量の余地を大きく残してその活動をサポートするような、行政や産業界からのキャリア教育推進策が打ち出されているといえる。これは、各地域の産業を大切にし、各教員の専門性を信頼していることの表れといえよう。

(本所恵)

<参考文献>

宮本みち子 2006 「スウェーデンの若者政策——社会参画政策を中心に——」 小杉礼子、堀有喜衣編 『キャリア教育と就業支援』 勁草書房

福田誠治 2007 『競争しても学力行き止まり イギリス教育の失敗とフィンランドの成功』 朝日新聞社

澤野由紀子 2007 「欧州におけるキャリア教育の動向」 国立教育政策研究所編 『キャリア教育への招待』 学事出版

Anders Lovén 2002 *Report commissioned by using the OECD questionnaire. Review of career guidance policies. SWEDEN.* Cedefop

<http://www.programkontoret.se/upload/sv/vagledare/oecd%20sweden.pdf>

- Anders Lovén 2007 Rädsla om ungdomarna behöver den! (Sydsvenska Dagbladet 2007-04-19)
<http://sydsvenskan.se/opinion/aktuellafragor/article232750.ece>
- Fransson, K. 2001 Redovisning av Skolverkets utredningsuppdrag: Trettio år med "skola-arbetsliv – en översikt"
- Law, B. and Watts, A. G. 2003 "The DOTS ANALYSIS. original version" National Institute for Careers Education and Counselling, The Career-Learning Network. (Extracted from: *Schools, Careers and Community A Study of Some Approaches to Careers Education in Schools* pp. 8-10)
<http://www.hihohiho.com/memory/cafdots.pdf>
- Läroplan för obligatoriska skolan: Lpo94
- Läroplan för frivilliga skolformerna: Lpf94
- OECD 1998 *Thematic Review of the transition from initial education to working life. SWEDEN. Background report.*
- SACO 2005 *Välja yrke*
- Skolverket 2004 Skolverket --a presentation. The Swedish National Agency for Education.
- Skolverket 2005 *Utvärdering av vägledning inom det offentliga skolväsendet*
- Skolverket 2006 *Barn, elever och personal –Riksnivå.*
- Skolverket 2007 Fact sheets <http://www.skolverket.se/sb/d/374>
- Skolverket 2007 *Kvalitetsgranskning av studie- och yrkesorientering inom grundskolan*

<関連ウェブページ>

- 学校庁 <http://www.skolverket.se/>
- 学校開発庁 <http://www.skolutveckling.se/>
- 労働庁 <http://www.arbetsformedlingen.se/>
- Avstamp <http://www.avstamp.nu/html/public/index/index.aspx>
- 労働環境庁 <http://arbetsmiljoverket.se/>
- スウェーデン経済団体連合会 <http://www.svensktnaringsliv.se/>
- 東部スウェーデン商工会議所 <http://www.east.cci.se/>
- エスキルステューナ・コミュニケーション <http://eskilstuna.se/>
- ショーン・コミュニケーション <http://www.tjorn.se/>
- ストックホルム総合大学教育学部 進路カウンセラー養成プログラム
<http://sisu.it.su.se/info/index/SSYVK>